



文化を守り、自然を守る

豊かな自然と文化財を未来に残そう

荒川堤外、塚本の文化財「薬師堂のマキ」と周辺自然の保全を求める質問をしました。

薬師堂のマキの看板は、「浦和市」のまま、以前あった入り口の案内看板も今はありません。質問後すぐに、「浦和市」から「さいたま市」に改善されました。入り口の案内看板も再設置されることになりました。



不法投棄

薬師堂のマキの周辺には、ハンノキの自然林があります。埼玉県蝶であるミドリシジミの食性に必要なハンノキ林は、全国的にも貴重です。準絶滅危惧種の植物も多く、豊かな自然が残っています。堤外は農地としては認められていますが、居住はできません。そのために農作物の盗難や不法投棄の温床となっています。このままでは貴重な自然が失われてしまうと指摘し、荒川堤外の里山を守るべきと求めました。

守れ！サクラソウ

「田島ヶ原サクラソウ自生地」の保全に向けて調査専門員の荒木准教授からお話を伺いました。議会では作業員の勤務日数が減らされた問題、伐採が必要な樹木が残されている問題などを指摘しました。市は、伐採については検討すると答弁しました。



現地に於いて
荒木准教授と私

循環型社会に向けて

生ごみ、まだ燃やしますか？

生ごみは水分量が多く、燃やすためには多くのエネルギーが必要です。小川町で食品残渣をバイオガスプラントで液肥にするとりくみを学習。本市でも生ごみのリサイクルを求め、ゼロウェイスト宣言に向けてとりくんで行くよう求めました。市は、生ごみリサイクルについては、とりくんでいくと前向きな答弁をしました。

お問い合わせ
久保みき事務所
桜区道場3-15-20
TEL 048-762-8819
市議団控室
TEL 829-1811
FAX 833-8165



動物に優しい さいたま市へ



学校のウサギ等の飼育は 考え直すべき

「確実に動物虐待と言える行為です！」

さいたま市の小学校104校のうち69校でウサギ、モルモット、鶏などの小動物を飼育しています。飼われている動物でもっとも多いのが、ウサギです。

ウサギを飼育する際の適正温度は、18℃から24℃です。校庭飼育されているウサギは、夏の酷暑、冬の極寒で命の危険があります。ウサギは草食動物で、半日から丸1日、絶食状態になると内臓に障害を起こし、最悪の場合、死に繋がることがあると言われています。学校は土日が休日で、多くの学校のウサギたちは丸2日絶食状態。「確実に動物虐待と言える行為」と強く指摘しました。

学校で動物を飼育する目的は、生命の大切さや思いやりの心を育てることであるはずですが、それがもはや、大切な命をそまつにあつかっていいという教育になっていませんか。私は学校での小動物の飼育を見直すべきと求めました。市は、答弁で、教職員や地域ボランティア、獣医師等が飼育に関わり、より命を大切にする飼育方法へ改善することを約束しました。

別所沼公園の野鳥を守れ ——ポイ捨てされた釣り糸等でケガ

別所沼公園の釣り人がポイ捨てした釣り糸や針によって多くの野鳥が苦しんでいます。片足を失ったバンや釣り糸が足に絡まりついた鳥の写真を示し、公園のごみ拾いの徹底と「ポイ捨て禁止」の啓発の看板を大きく効果的なものに変えるよう求め、市は、清掃と看板の改善をすると約束しました。

釣り糸がぐるぐる巻きになった鳥の足(左)
絡まった釣り糸が原因で片足を失ったバン(右)



台風19号の 被害を忘れない



ポンプが増える予定の場所にて

災害対策強化へ 市独自のとりくみを

2019年の台風19号で、甚大な被害が出た、桜区油面川流域の対策として前倒し整備された「油面川排水機場」のポンプの増設について質問。昨年6月の大雨では、排水機場の稼働により、浸水は免れたもの

の、油面川の水面は路面ギリギリのところまで来ており、ポンプを早く増やすべきと求めました。

さらに鴻沼川流域の対策について質問したところ、市は、県が決めっていると答弁したので「市独自では、何もしないと言うことか？」と再質問。市は、「できることはしていく」と答弁、市独自の対策を約束しました。今議会では、桜田1丁目にある「桜田2ポンプ」(鴻沼川に内水を流すポンプ)の設計業務の補正予算が決まりました。また、災害弱者への支援で、福祉避難所への直接避難、防災無線受信機の配布を求めました。

〓 実現しました! 〓

鴻沼川右岸の 真砂土舗装

桜田、新開地域の鴻沼川右岸の歩道、真砂土舗装が完了しました。2021年に地域から要望を受け市と交渉、2022年に一部舗装が実現し、6月議会のまちづくり委員会の議案外質問で、一度に全体を舗装するよう求めていました。実現してとてもうれしいです。

